

守山市スポーツ栄誉賞を授与

国内外の大舞台で輝いたアスリートたち



大きな舞台で優勝を飾った4人のアスリートが「守山市スポーツ栄誉賞」に輝き、昨年12月に市役所で森中市長から表彰状を授与されました。

授与式では選手たちが、それぞれ優勝を果たした大会と栄誉賞受賞の感想のほか「2025 世界陸上を目標に」(西田さん)「2024 ジャパンパラへ出場」(大西さん)「パリパラリンピックでメダルに絡みたい」(南井さん)「世界ランキングのシングルに」(井上さん)など、新年や将来の抱負・意気込みなどを力強く語っていました。これを受けた市長は「令和7年に滋賀で開催する国スポ・障スポでも活躍を間近で見たい」と選手を激励していました。



西田 有里さん
特別国民体育大会
陸上少年女子A800m 優勝

大西 航さん
特別全国障害者スポーツ大会
水泳50m自由形・平泳ぎ 優勝

南井 瑛翔さん
2022杭州アジアパラ競技大会
水泳200m個人メドレー、
100mバタフライ 金メダル

井上 舞美さん
2022杭州アジアパラ競技大会
水泳Mixed4x100mリレー 金メダル

相客に心せよ

佐川美術館「アートコラム」⑦

学芸員 佐川美術館
松山 早紀子



茶道では、釜にくんだ水を火にかけ、湯を沸かします。とても重要な道具であることから、お茶会を催すことを「釜を懸ける」といいます。新しい年を迎えた最初のお茶会を「初釜」といい、お稽古はじめの日でもあります。

初釜にいたたく御菓子は流派によって異なりますが、表千家は常磐饅頭、裏千家は花びら餅が定番菓子とされています。お茶席で、御菓子や御茶が運ばれたらお隣に「お先に頂戴します」と声をかけますが、これがとても大切な作法のひとつです。

茶の湯の大成者・千利休の教えである利休七則に「相客に心せよ」という教えがあります。「相客」とは同席したお客さまのこと、「心せよ」とは「気を配りましょう」ということです。例えば、一人の身勝手な振る舞いが周りの人々に不快感を与え、楽しいはずのお茶会が台無しになってしまうこともあります。つまり、同席したお客さま同士がお互いに気遣い、尊重し合い、共に楽しいひとときを過ごせるよう思いやることで、より心地よい空間になるといって教えます。

これはお茶席に限ったことではなく、どんなときも大切な教えと心得ます。「来館者さま同士がお互いに尊重し合うことで、美術館もより心地よい空間になるにちがいありません。

本年も「来館者さまには非日常を楽しんでいただけるよう、スタッフ一同「おもてなし」の心を大切に、より心地よい美術館を目指してまいります。

*開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話☎(585)7800)でお問い合わせください。